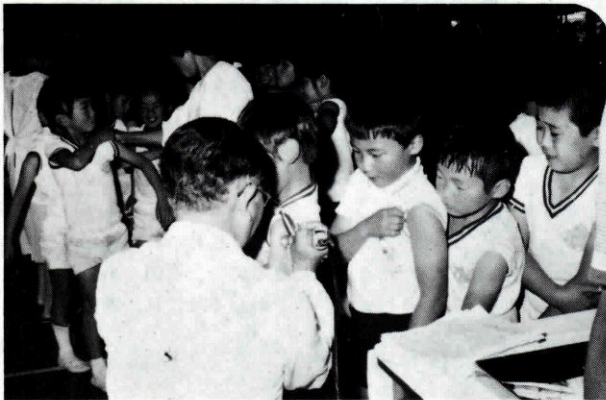


フォト・ルポ



◀あと1周。がんばれ!

たくましい油谷っ子を育成する第2回中学校連合体育大会が6月3日(水)菱海中で催された。会場には、町内3中学校から451人が集い、女子は100m走、男子は200m走で全員がタイムを競い、続いて800m・1500m走か走り幅とび、ボール投のうちから1種目を選んで出場し、午後はクラス対抗のソフトボールとバレーボールに熱戦をくり広げた。
(写真は、1500m走)

6月6日・7日の両日、川尻漁村センターの二階ホールで向津具公民館川尻学級教室の、初めての発表会が行われた。会場には、書道・盆栽・生花・陶芸の各教室の参加者が、会場いっぱいには日頃の学習の成果を展示し、「ウム、なかなかのできじゅの一、玄人(くろうと)も顔までー」と、たくさんの見物者ににぎわった。

▼ウム、なかなかの出来じゃの一



▲痛そうだなー

6月8日から23日まで、日本脳炎の予防接種が、3歳から中学生までを対象に行われた。日本脳炎のウイルス汚染は、昭和52年を境に、53年から増加の傾向にあります。日本脳炎は適切な治療を受けても発病者の3分の1は死亡、3分の1は手足のマヒなどの後遺症が残る恐ろしい病気です。予防としては、蚊にさされないようにして、バランスのとれた食事と睡眠をとることです。

菊舎尼は、長府藩士田上由永の娘で、宝暦三年(一七五三)一〇月一四日、豊北町田耕で生まれ本名はみちといひ、一六歳で田耕の村田利之助に嫁入りました。二四歳で未亡人となり、家は養子を迎え、自分は長府に移住していた父の家に帰り、俳句の道に入り、真宗の信仰に入り、夫の喪があげた安永九年(一七八〇)の夏から諸国遍歴の旅に出ます。

最初に人丸神社に詣でるのですが、出発の時「月を笠に着て遊ばや旅の空」と詠み、これからの永い永い人生の旅出の心境を語っています。

人丸神社では「吾笠に淋しきしめや蝉しぐれ」「染めて行かむ筆柿の葉も茂り時」の二句があり、最初の句の句碑が、昭和



き 菊舎尼の句碑は人丸神社内



四七年四月二十九日に油谷俳壇の方々によって建てられました。菊舎尼は、文政九年(一八二六)八月二三日、七三歳で長府で亡くなりましたが、その間日本全国をほとんど残すところなく遍歴し、俳人・詩人・書家・画家・茶人・音楽家などと交わり、俳句だけでなく多くの教養を身につけました。そのことは彼女の自伝、手折菊や残り菊によくあらわれております。

さ 先大津勘場の跡に菱海中

油谷町の歴史いろはがるた

さきおおつかんば

あと 毛利氏は、防長両国を一八の宰判に分けて、地方行政を行いました。現在の日置・油谷・豊北町にかけての地域を先大津宰判とし、現在菱海中のある所へ勘場という役所を置いていました。